

福岡市民病院の概要



〈福岡市民病院〉

1. 市民病院の概要等について.....	1 ~ 5
2. 各診療科の状況	
(1) 内 科.....	6 ~ 9
(2) 外 科.....	10 ~ 12
(3) 神経内科.....	13 ~ 14
(4) 脳神経外科.....	15 ~ 16
(5) 循環器科.....	17
(6) 整形外科.....	18 ~ 20
(7) 麻 酔 科.....	21 ~ 22
(8) ICU・救急部.....	23 ~ 24
(9) 放射線科.....	25 ~ 27
3. 災害被災地への派遣等.....	28
4. 看護師等人材育成のための実習受入.....	29

1. 市民病院の概要等について

(1) 病院概要

①開設年月日 平成元年5月1日

②規模
敷地面積 6,036.66 m²
建物延べ床面 14,452.58 m²
地上8階、地下1階

③基本理念

「心を尽くした最高の医療を通じて すべての人の尊厳を守ります」

④病院の種類及び性格

ア. 急性期病院

イ. 脳卒中センター（脳神経外科、神経内科）、循環器科、ICU（集中治療室）を設置し、地域に不足する高度救急医療を提供している。

ウ. 地域特性により患者が多い肝臓、腎臓の疾患に対し、開設時より「肝腎センター」を設置し、専門的医療を提供している。特に「肝炎、肝硬変、肝癌」の治療に関してはセンター的役割を果たしており、また腎透析用の動静脈瘻作製（血管外科）例数は市内でも有数である。

エ. 当院の脊椎外科治療は常に九州のリーダーとして存在し続けており、消化器癌治療、糖尿病治療も指導的役割を果たしている。

⑤診療科目

内科、外科、神経内科、脳神経外科、整形外科、循環器科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、麻酔科

⑥病床数 200床

⑦各種医業統計比率（平成18年度）

ア. 平均在院日数・・・17.1日

イ. 病床利用率・・・92.8%

ウ. 患者紹介率・・・60.9%

エ. 平均診療単価

入院・・・43,244円/日 外来・・・16,513円/日

⑧職員定数

205人（うち医師34人、看護師124人）

(2) 病院機能強化等への取り組み

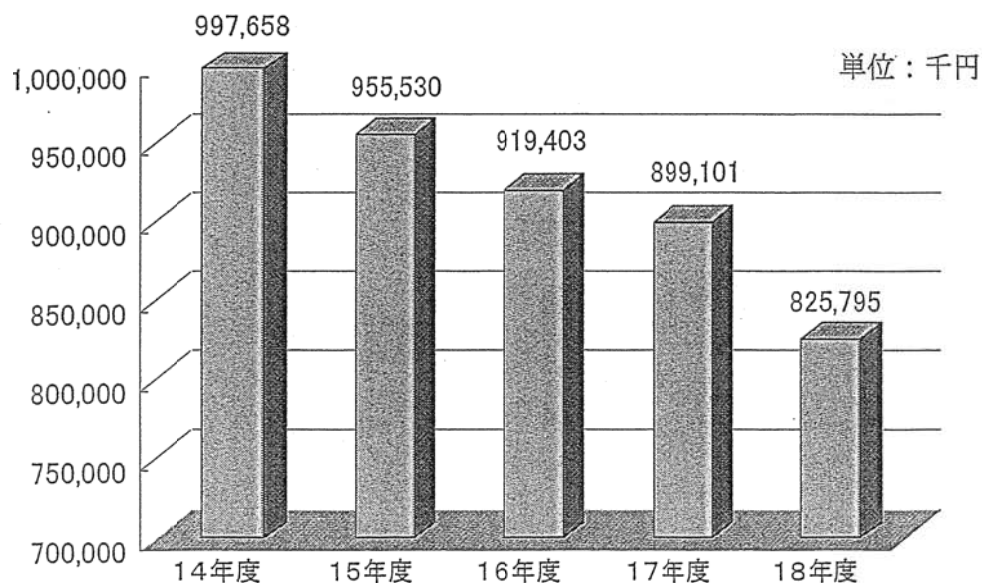
平成12年に現院長が就任して以来、「心を尽くした最高の医療を通じて、すべての人の尊厳を守ります」を基本理念として、

- ①市民の医療ニーズへの対応
- ②患者サービスの向上
- ③医療事故防止の推進
- ④TQM運動を通じた職員の意識改革
- ⑤経営収支の改善 等に取り組んできた。

特に、平成14年12月には病院事業運営審議会から「市立病院の役割・あり方について」答申が出され、この答申の中で早急に取り組む事項とされた「診療内容の見直し」や「高度救急医療への取り組み」等について、次のように診療科の再編等を行い市民に求められる医療の提供に努めている。

- ・平成15年 3月 救急告示病院として指定
- ・ 15年 4月 診療科を見直し、神経内科、脳神経外科を新設し脳卒中センターを設置
地域医療連携室を設置し病・診連携体制を強化
- ・ 16年 7月 消防局と連携し、救急救命士の気管挿管実習を開始
- ・ 16年11月 電子カルテ導入
- ・ 17年 4月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得
- ・ 17年 8月 ICU(集中治療室)設置
- ・ 17年10月 消防局と連携し、救急ワークステーション事業開始
- ・ 18年 4月 診療科見直しにより循環器科を設置し、高度救急医療体制を強化
- ・ 18年 5月 診療報酬制度改正に対応するためDPC(診断群分類による包括評価)導入に参加
(全国自治体病院 992病院中37病院が導入)
- ・ 19年 7月 臨床修練指定病院(対外国人医師)の指定

(3) 一般会計からの繰入金の推移



診療報酬改定 -2.7%

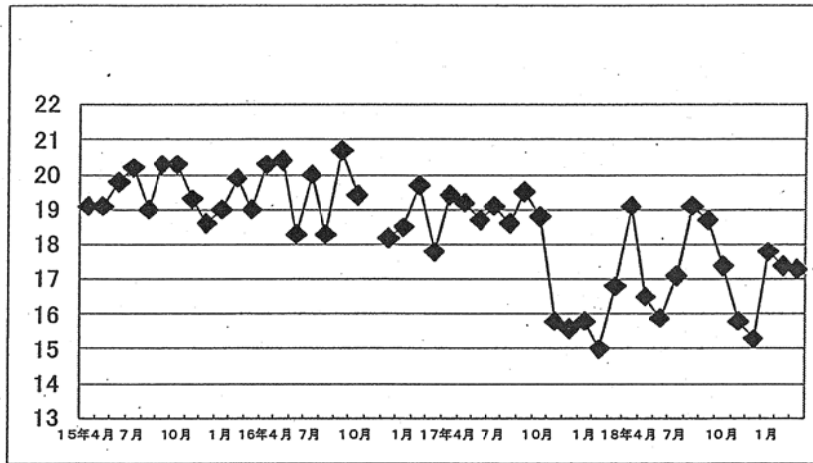
-1%

-3.16%

(4) 各種医業統計

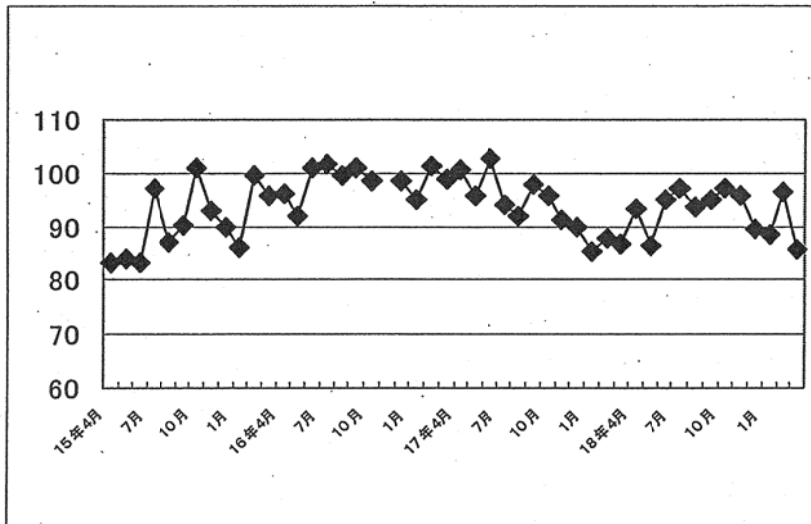
①平均在院日数

(単位：日)



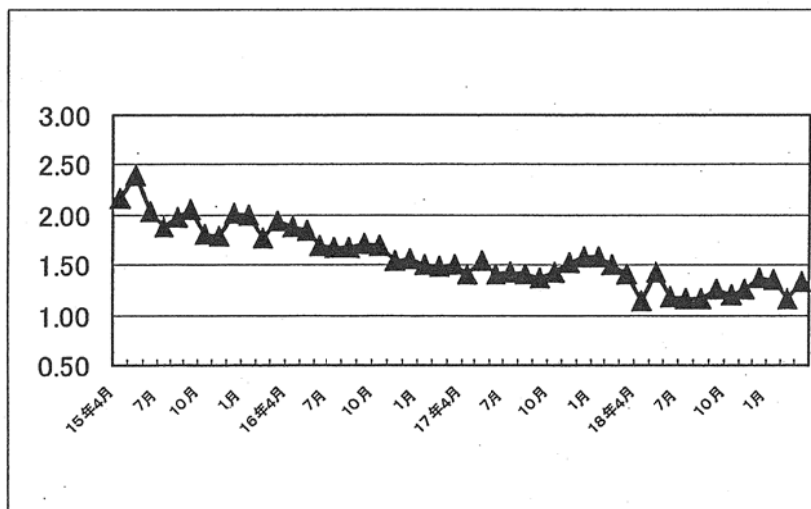
②病床利用率

(単位：%)



③外来入院比率

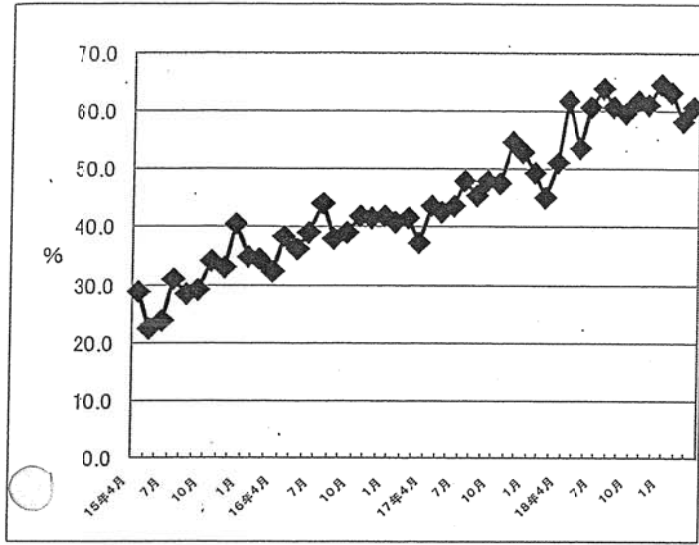
(単位：比)



④紹介率・逆紹介率

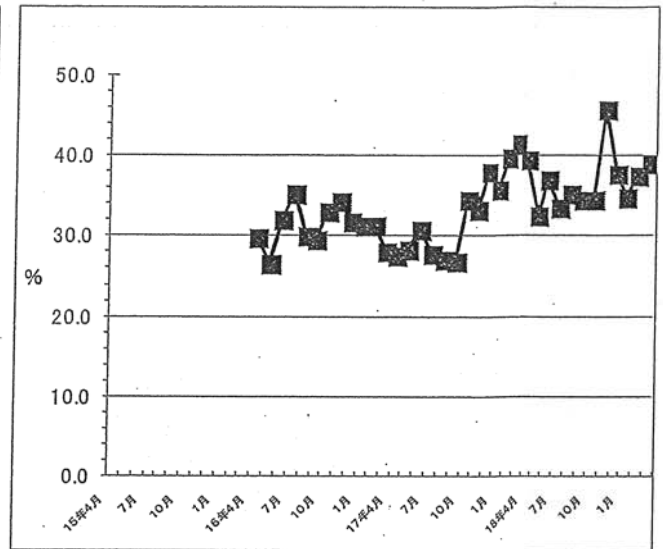
・紹介率

(単位：%)



・逆紹介率

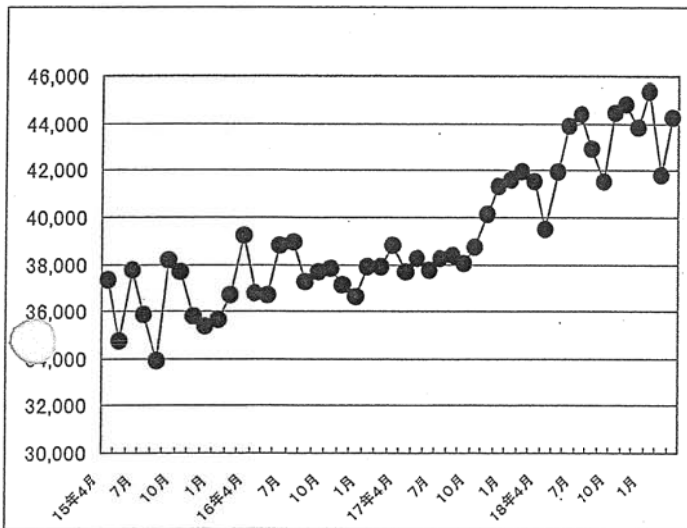
(単位：%)



⑤平均診療単価/日

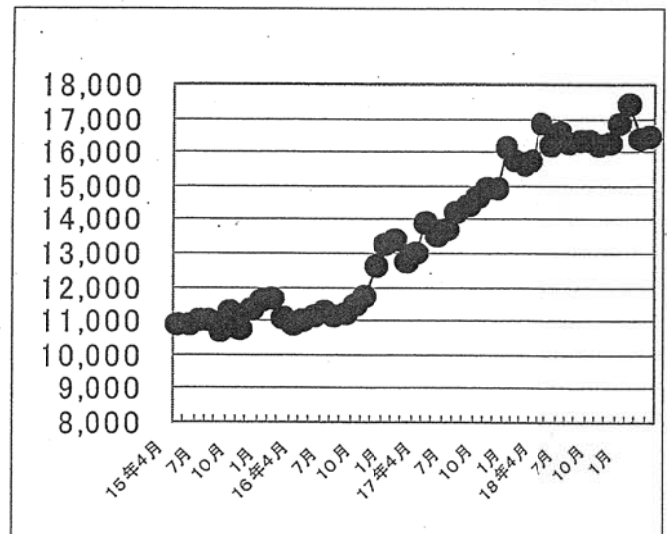
・入院

(単位：円)



・外来

(単位：円)



(5) 施設認定状況について

日本肝臓学会認定施設

日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本内科学会教育関連病院認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設

日本神経学会専門医制度教育関連施設

日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

日本麻酔科学会認定病院

日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関

日本医療機能評価機構認定病院(平成17年4月25日認定)

管理型臨床研修指定病院

日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設

臨床修練指定病院(外国人医師臨床修練施設)

2. 各診療科の状況

(1) 内科

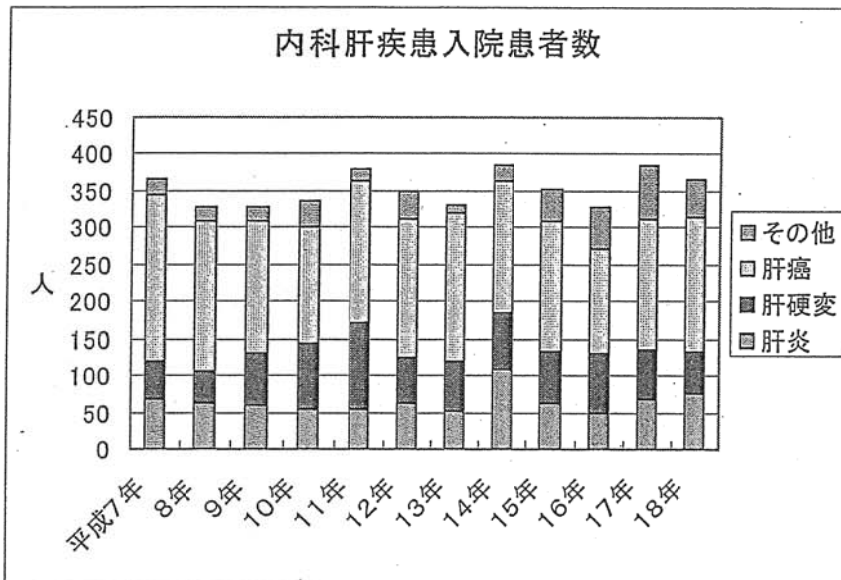
<概要>

市民病院内科は肝・胆・膵、消化管、内分泌代謝・糖尿病を中心に診療を展開している。特に肝臓癌治療は外科と共同で診療に当たり市内でも有数の症例数を誇っている。消化管は内視鏡治療が中心で、最近の内視鏡的粘膜剥離術の症例を伸ばしている。糖尿病は福岡市が疾病対策として脳卒中ともども力を入れている分野であるが、福岡市医師会成人病センターと共同で軽症糖尿病診療に対して先駆的な試みを行ってきた。

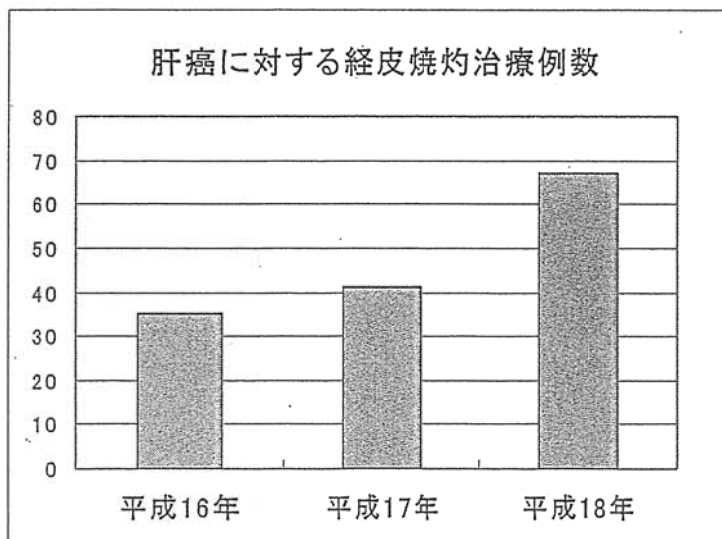
①肝臓

<特徴>

肝疾患に対しては、平成元年より特に肝癌の診療に力を入れてきた。当科における入院患者の35%が肝疾患で、そのうち50%が肝癌患者である。全員が慢性肝炎に対するインターフェロンや抗ウイルス剤治療、食道静脈瘤に対する内視鏡的結紮術や硬化療法、肝癌に対するマイクロ波やラジオ波を用いた焼灼療法、等全ての治療手技に精通して、市民に対して総合的な肝臓疾患治療を提供している。

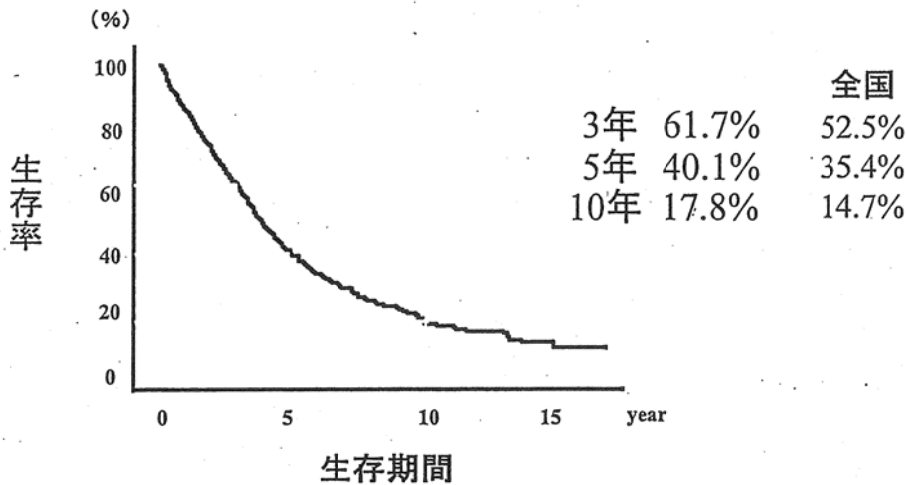


・肝癌の治療



肝癌の経皮的治療であるマイクロ波凝固、及びラジオ波凝固治療症例数は年々増加しており、これ以外にエタノール注入療法も併せて、市内でも有数の治療例数である。

当院におけるHCCの累積生存率(n=803)



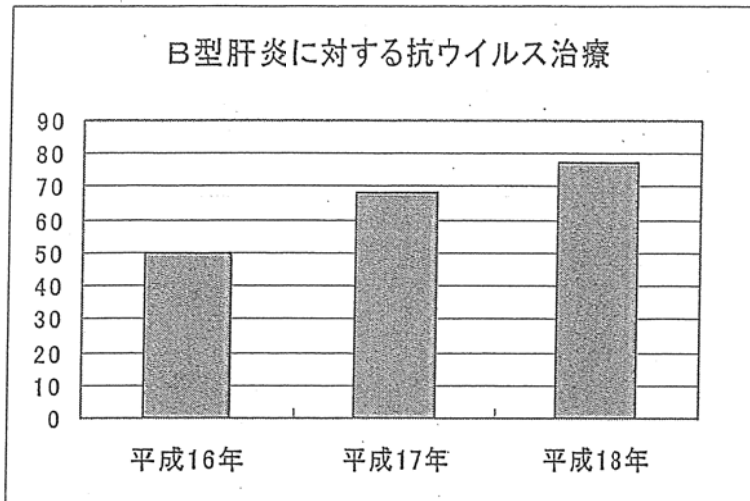
第17回全国原発性肝癌追跡調査報告（日本肝癌研究会）の全国集計と比較しても良好な治療成績を得ている。内科、外科、放射線科の連携による集学的治療が、極めて有効に機能している結果である。

施設別肝癌症例数 九州肝癌研究会集計より（平成7年～17年）

施設名	総数	施設名	総数
久留米大学消化器内科	1217	佐賀県立病院	387
飯塚病院	994	九州医療センター消化器科	346
長崎医療センター	710	南風病院	342
福岡赤十字病院	590	久留米大学医療センター	333
佐賀大学	554	福岡徳洲会病院	327
産業医科大学消化器・代謝内科	521	鹿児島大学消化器内科	316
九州医療センター外科	503	大分医療センター消化器科	287
◎福岡市民病院	489	長崎大学第一内科	276
宮崎大学内科学二	487	甘木朝倉医師会立朝倉病院	252
大分大学第一内科	468	宮崎医療センター病	214
九州がんセンター	457	長崎大学第二内科	174
熊本大学消化器内科	442	西日本病院	125
九州大学第二外科	397	琉球大学	111

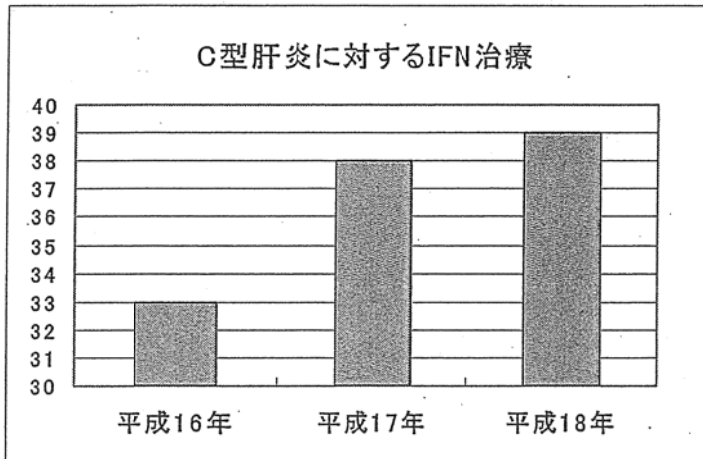
福岡市内でも有数の治療例数であり、現在においても福岡市民にとって重要な治療の場を提供している。

・B型肝炎の治療



B型肝炎に対する抗ウイルス療法を行っている例数も着実に増加している。

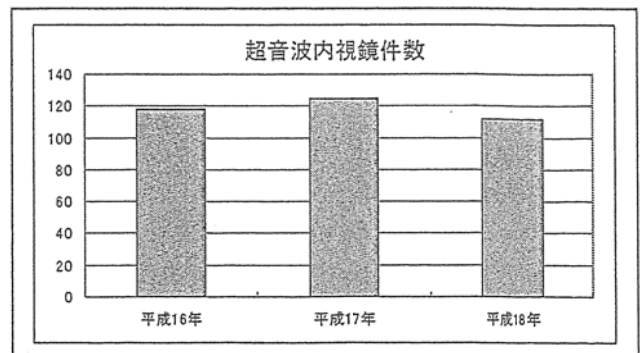
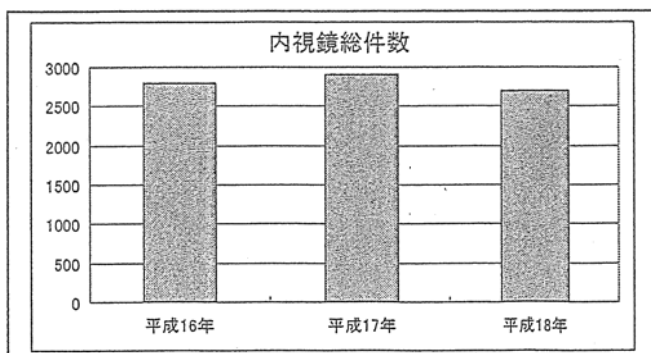
・C型肝炎の治療

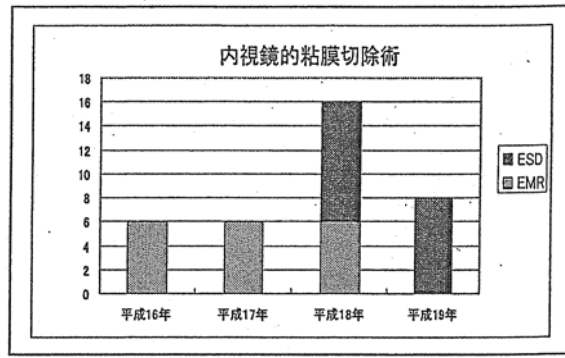
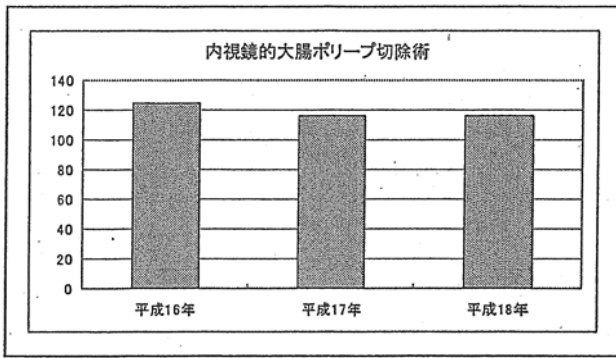


C型肝炎に対するインターフェロン導入を行っている例数も着実に増加している。

②消化器（消化管）

消化器内科では内視鏡診断と内視鏡的治療を中心に診療を展開している。内視鏡的粘膜切除術（EMR）の他に平成18年度からは内視鏡的粘膜剥離術（ESD）を開始して、順調に症例を増加している。過去3年間の内視鏡検査総数は約2700件、超音波内視鏡検査は約120件、内視鏡的大腸ポリープ切除は約115件、内視鏡的胃粘膜切除術は6件、平成18年度から内視鏡的粘膜剥離術を10件（平成19年度は8件）実施した。





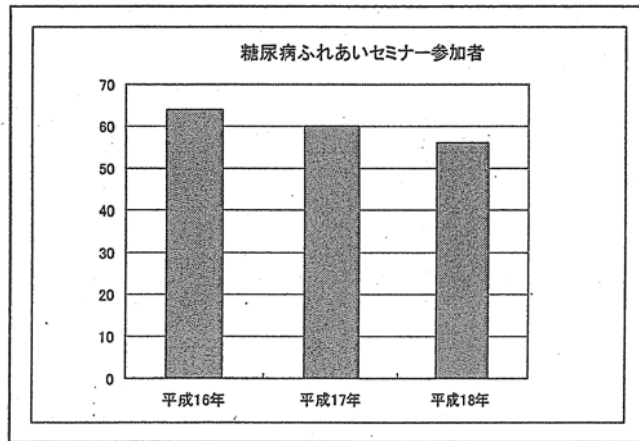
③内分泌代謝・糖尿病

ア. 福岡市ミニドック糖尿病患者支援システムモデル事業（平成15年～平成17年）

福岡市が重点を置く糖尿病診療に対して、発症早期から介入して、初期治療方針を確立すること、および診療の脱落を防ぐことを目的に計画された福岡市と福岡市医師会共同による事業。本事業は平成20年度から施行が予定されている特定健診の先駆けともなる制度であった。

イ. 院外活動

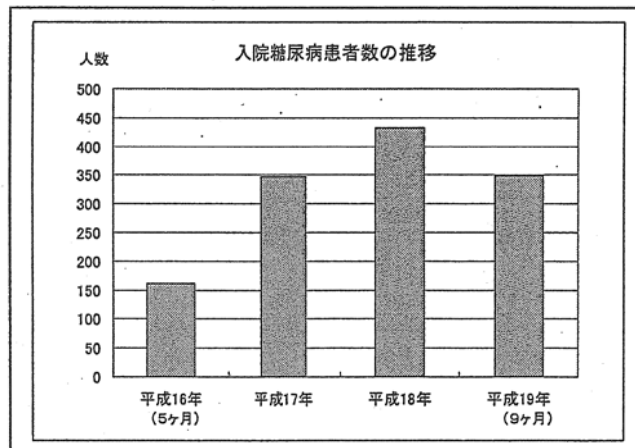
平成14年から毎年1回一般市民を対象に糖尿病セミナーを開催して、糖尿病の啓蒙や健康増進活動を行っている。



<診療実績>

DPC導入後の主病名および副病名に糖尿病の診断のある入院患者数は以下の通りである。

内科での教育入院や血糖コントロール入院だけでなく、糖尿病を合併した他科の患者が多数存在することがわかる。しかも年々増加している。



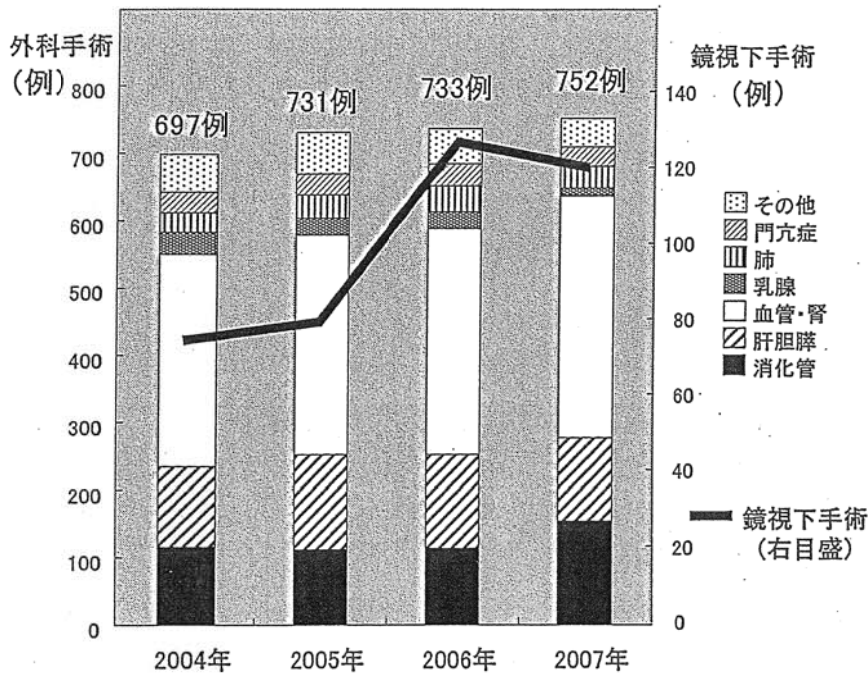
・外来では月平均約700名の糖尿病患者を診療している

(2) 外科

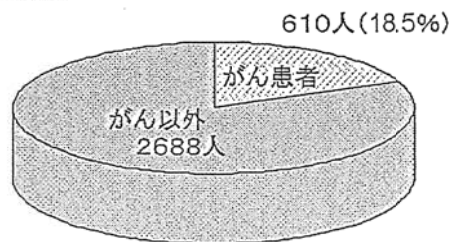
<概要>

診療内容は消化器外科（食道、胃、大腸、肝胆膵）、血管・腎不全外科、乳腺外科、呼吸器外科であり、総勢9名で外科と肝腎センターの診療に従事している。当院の入院患者に占めるがん患者の割合は18.5%であり、その半数以上が外科において手術や化学療法が精力的に行われている。外科の年間手術で症例数は約750例であるが、近年、とくに市民のニーズに応じて、胃、大腸、肺、門脈圧亢進症などの各分野において内視鏡外科手術の導入に力を注いでおり、過去4年間、順調に症例数が増加している。学術面では、日本外科学会、日本癌治療学会、日本消化器外科学会などの全国学会にシンポジウム、ワークショップなどで精力的に治療成績などを発表している。

外科手術症例数の年次推移

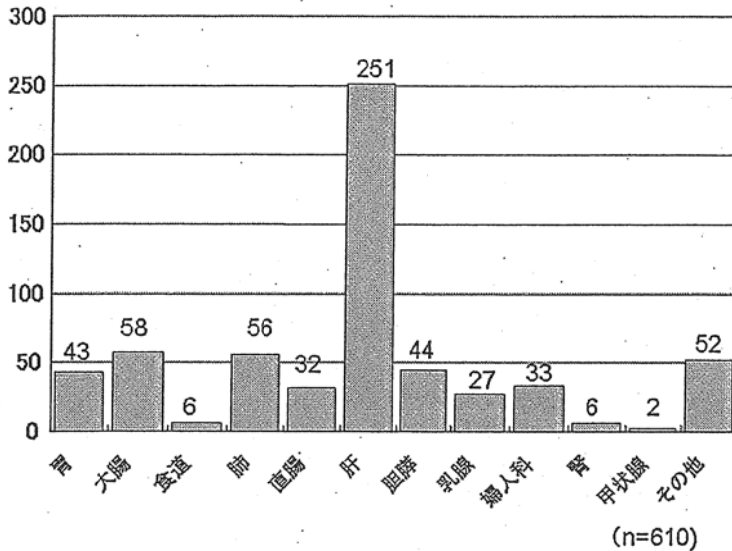


入院総数に占める癌患者の割合



延べ入院患者総数: 3298人
(平成18年度)

全科入院の癌患者臓器別内訳(平成18年度)



<特徴>

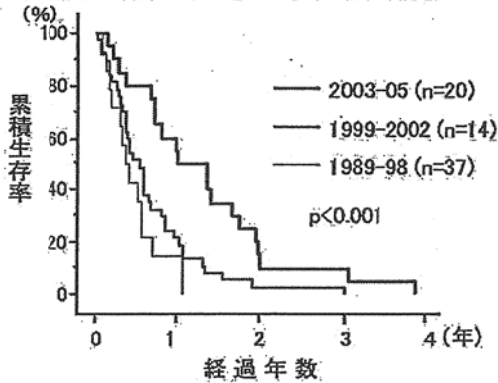
①消化管外科

早期癌には腹腔鏡手術や神経温存手術を積極的に行い、Poor - risk 症例に対しても腹腔鏡手術を導入して、根治性と安全性の高い治療を可能にした。(第107回日本外科学会：大阪2007発表)。

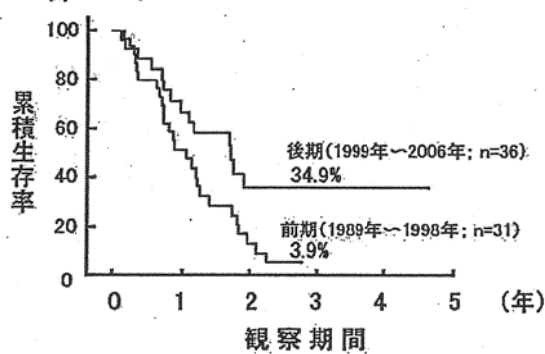
進行癌には外科と化学療法による集学的治療を積極的に行い、生存期間の延長が得られている。

(第108回日本外科学会：長崎2008発表予定)

StageIV胃癌非治癒症例の治療成績



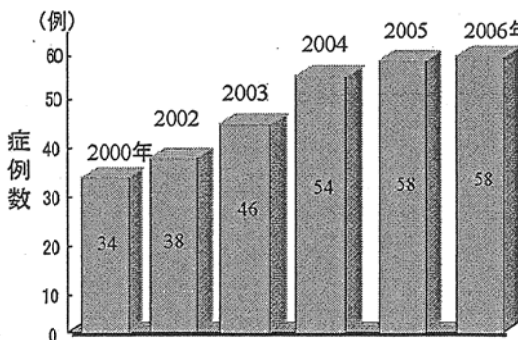
StageIV大腸癌の治療成績



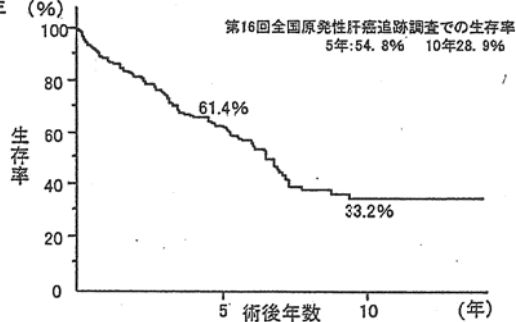
②肝胆膵外科

平成18年の肝癌切除症例数は九州地方ランキングで7位であり、九州の大学病院とともに専門病院としての役割を果たした。(週間朝日 2007年3月号)。肝癌手術症例は年々増加しており、全国平均と比較して良好な治療成績を呈している。

肝癌手術症例の推移



肝癌切除後の累積生存率(n=260)



肝細胞癌切除症例数(九州ランキング)

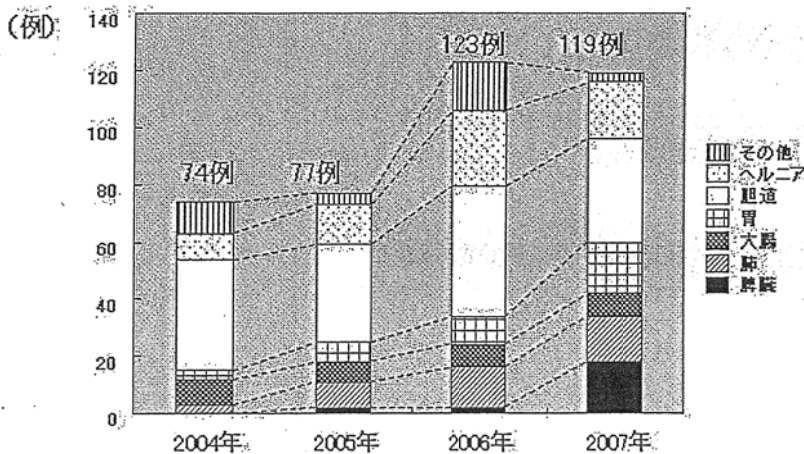
順位	施設名	症例数	所在地	医師	主任医師
1	鹿児島大学病院	72	鹿児島県 鹿児島市桜ヶ丘 8-25 ☎099-275-5111	2	上野真一 迫田猛彦
2	九州大学病院	61	福岡県 福岡市東区馬出 3-1-1 ☎092-641-1151	5	山口孝二 武富裕信
3	熊本大学病院	60	熊本県 熊本市庄 1-1-1 ☎096-394-2111	2	別府 道 石河隆敏
4	鹿児島厚生連病院	49	鹿児島県 鹿児島市天保山町 22-25 ☎099-252-2225	2	前之原茂雄 濱之上雅博
5	(国)九州医療センター	43	福岡県 福岡市中央区地行浜 1-6-1 ☎092-852-0700	2	才津秀樹 高見裕子
6	(国)長崎医療センター	40	長崎県 大分市久原 2-1001-1 ☎097-532-6131	2	藤岡ひかる 谷口 登
7	福岡市民病院	36	福岡県 福岡市博多区吉塚本町 113-1 ☎092-632-1111	3	竹中賢治 池田敦治
8	新古賀病院	34	福岡県 福岡市東区新古賀 2-2222 ☎092-649-7200	5	草野敏臣 立花一幸
9	長崎大学病院	28	長崎県 長崎市坂本 1-7-1 ☎095-849-7200	6	兼松隆之 七島篤志
10	大分赤十字病院	26	大分県 大分市千代町 3-2-37 ☎097-532-6131	2	榎澤謙吾 岩下善雄

(週刊朝日、2007:5月号)

③内視鏡外科

難度の高い胃・大腸・脾臓・ヘルニアに対する鏡視下手術例が着実に増加している。特に腹腔鏡下脾臓摘出術をC型肝炎のインターフェロン療法に対する低侵襲支援療法と位置づけ積極的に推進している。
(第107回日本外科学会：大阪2007発表)。

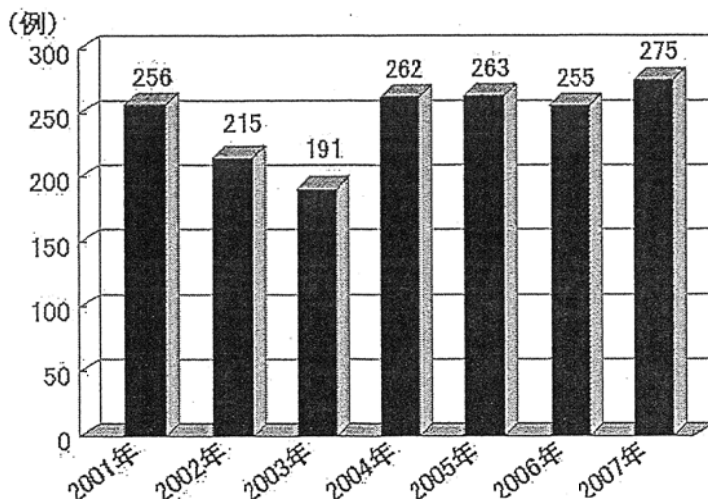
鏡視下手術症例数の年次推移



肝腎センター

肝腎センターでは、血液透析治療とともに透析用バスキュラーアクセス(VA)トラブルに対する専門的手術を手がけている。手術症例数は福岡市内で最も多く、年間約270例のVA手術を施行した。
(第107回日本外科学会：大阪2007発表)。

内シャントトラブル修復手術症例数の年次推移



(3) 神経内科 (脳卒中センター)

24 時間 365 日 神経救急疾患全般に対応

94%が緊急入院、60%が救急搬送、47%が時間外入院

● 15 名に r t - P A 治療 (血栓溶解薬静注) を施行

(2008 年 1 月 23 日現在)

● 血管内血栓溶解治療も放射線科と協力して施行

● 平成 15 年 4 月脳神経外科と同時に開設

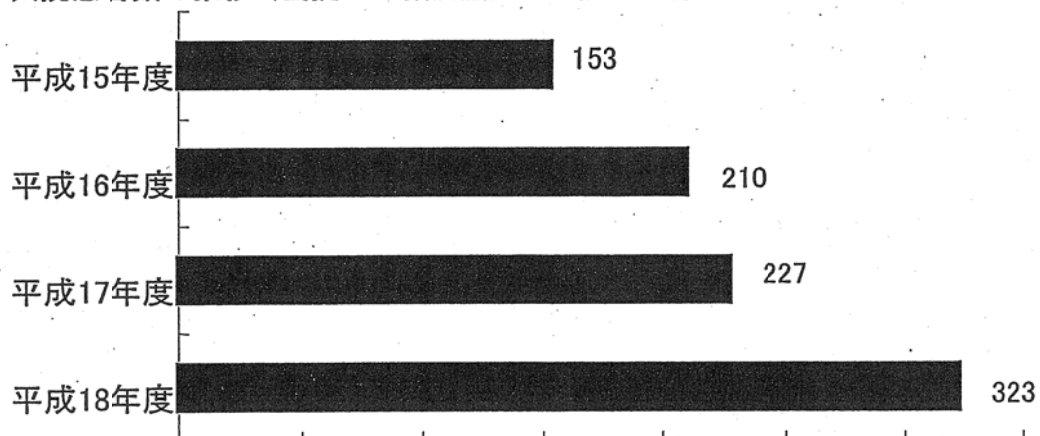
● 2 名の日本神経学会認定専門医、日本脳卒中学会認定専門医による診療

● 脳神経外科、放射線科と緊密な連携 (毎日合同回診)

● 日本神経学会教育関連施設

● 日本脳卒中学会教育訓練認定施設

入院患者数の推移 (当院への救急搬送に比例して増加)



平成 18 年度入院患者総数	323 名
脳血管障害	160 名
けいれん・てんかん	36 名
めまい症候群	26 名
失神・意識障害	13 名
脳炎・髄膜炎	12 名
パーキンソン症候群	9 名
その他	67 名

入院種別割合

緊急入院94%

入院経路別割合

救急車60%	介助	自力
	22%	16%

入院時間別割合

時間内51%	時間外47%
--------	--------

神経内科は神経内科疾患のうち主に神経救急疾患の診療を行っている。脳卒中以外の神経救急疾患にも対応している。急性疾患以外には主に外来でパーキンソン病、脊髄小脳神経症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の診療も行っている。

開設以来入院患者は順調に増加しており、平成18年度には323名の方が当科に入院した。内訳は脳血管障害160名（脳梗塞121名、一過性脳虚血発作4名、脳出血35名）、てんかんまたはけいれん発作36名、筋萎縮性側索硬化症4名、髄膜炎または脳炎12名、末梢性めまい26名、その他85名（パーキンソン病、ギラン・バレー症候群など）である。入院患者数は平成17年度の224名から99名増加して323名となり大に増加した。これは救急搬送が増加傾向にあるためと考えられる。特に救急搬送数が増加した6月以降の入院の増加が目立つ。

平成17年10月に認可された血栓溶解薬のrt-PAは平成18年度は6名に使用し良好な結果が得られている。当院の特徴として当直放射線技師が全員MRI撮影可能である。そのためrt-PA対象となりそうな患者は全員頭部CTのほか頭部MRI、MRA施行して適応を判定している。平成20年1月20日までに累計して15名の脳梗塞患者にrt-PAを使用している。

入院患者の来院種別では当科の特徴でもある救急車による搬送が194人と60%を占めている。緊急入院、予定入院の別では緊急入院が94%とほとんどであり、また時間外入院が152名（47%）と時間外の緊急入院が多いのも特徴である。

当院の特徴として、脳神経外科や放射線科などの他の診療科と協力して診療にあたっていることがあげられる。毎朝脳神経外科、放射線科とともにカンファレンスを行っており、回診も毎日脳神経外科と合同で行ない、最善の治療となるように検討を行っている。

(4) 脳神経外科（脳卒中センター）

<概要>

平成15年4月に脳神経外科が開設された。当初は福岡大学医学部脳神経外科から派遣された2名で臨床活動を開始したが、手術例数の増加と手術難易度の高い症例が多いことから、平成19年4月より1名増員となり、現在3名で臨床活動を行なっている。

脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患など幅広く対応している。脊椎脊髄疾患については当院整形外科と協力し、変性疾患は整形外科、髄内病変や脊髄血管障害等は当科で対応している。現在当院に小児科はないが、小児神経や先天奇形についても相当数の手術経験を有しており、充分対応可能である。

<特徴>

① 脳卒中センター 厳密な手術適応

脳卒中センターとして活動しており、神経内科や放射線科と毎日早朝カンファレンスおよび回診を行なっている。術後は手術ビデオを全例呈示している。これらによりオーバーサージェリーやアンダーサージェリーを防止し、手術適応を厳密に管理している。

② 救急対応

福岡地区メディカルコントロール事後検証医を含め、全員福岡大学救命救急センター勤務経験者であり、救急対応に優れている。緊急手術が必要な場合、救急車到着から最短10分台で手術室へ搬入している。

③ 安全確実な手術

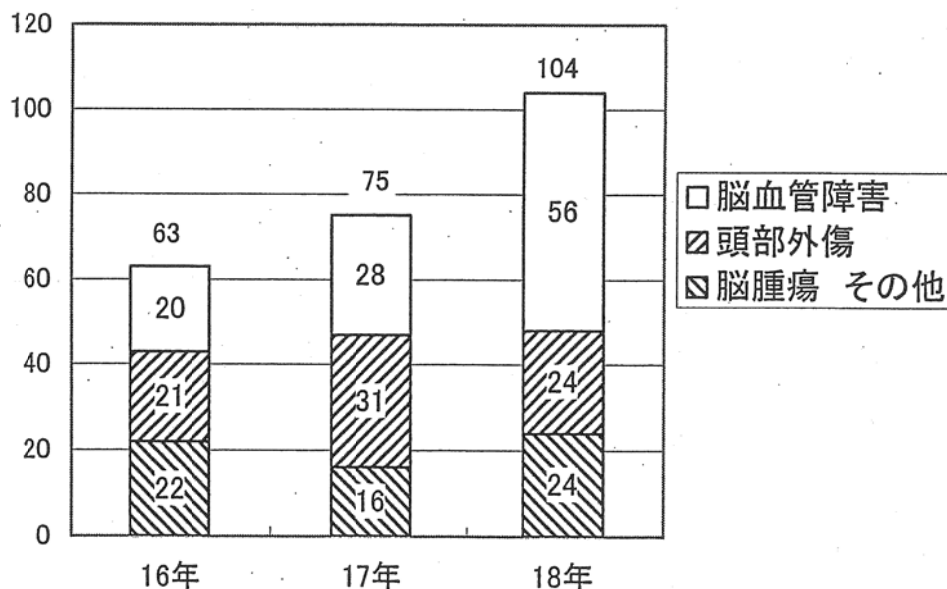
手術に際しては、運動誘発電位や体性感覚誘発電位等をはじめとした各種神経生理学的モニタリングをルーチンに施行している。さらに神経内視鏡アシストも導入し、機能的予後を重視した手術を行なっている。

④ 医療連携

近隣の回復期リハビリテーション病院と定期的な研究会を開催しており、毎回120名ほどの参加者がある。さらに福岡市医師会による脳血管障害地域医療連携パスのワーキンググループに参加し、地域医療連携に貢献している。

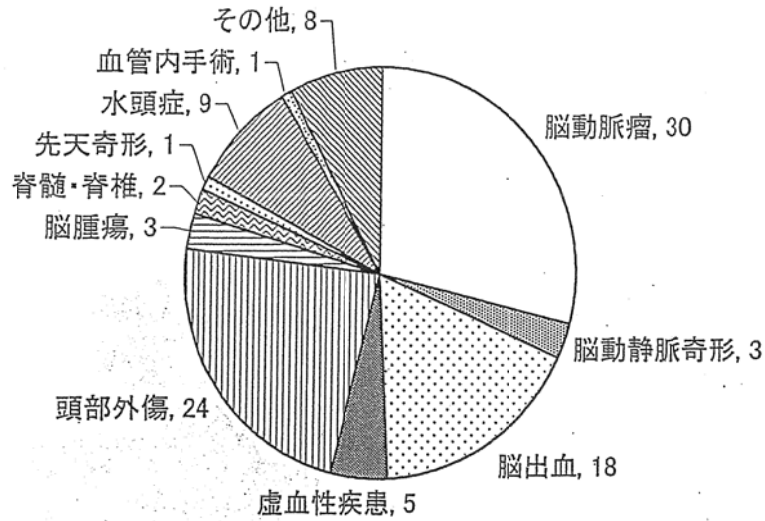
<診療実績>

脳神経外科手術例数



手術件数は順調に増加傾向にある。平成19年度は12月31日までの時点で105例となっており、昨年度実績をすでに上回っている。

平成18年度手術内訳



平成18年度の手術内訳では、脳血管障害が半数以上を占めている。中でも脳動脈瘤クリッピング術がトップであり、その施行例数は市内の病院の中でも上位を占めている。

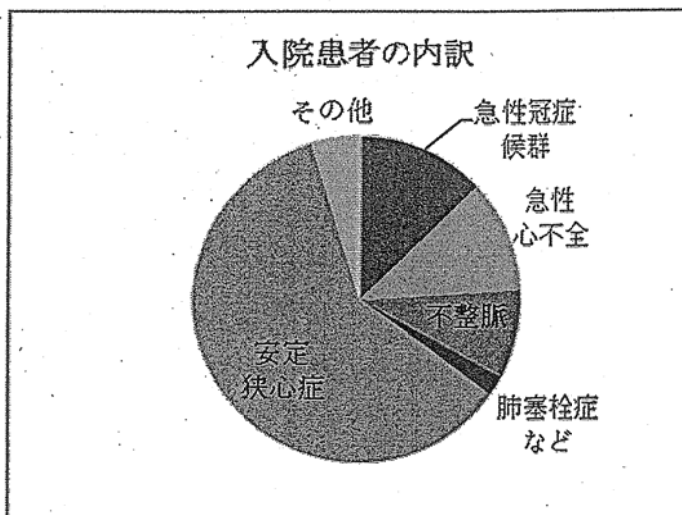
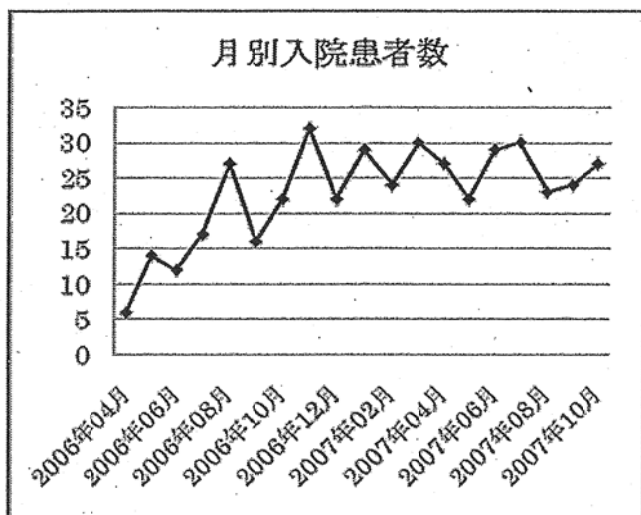
(5) 循環器科

<概要>

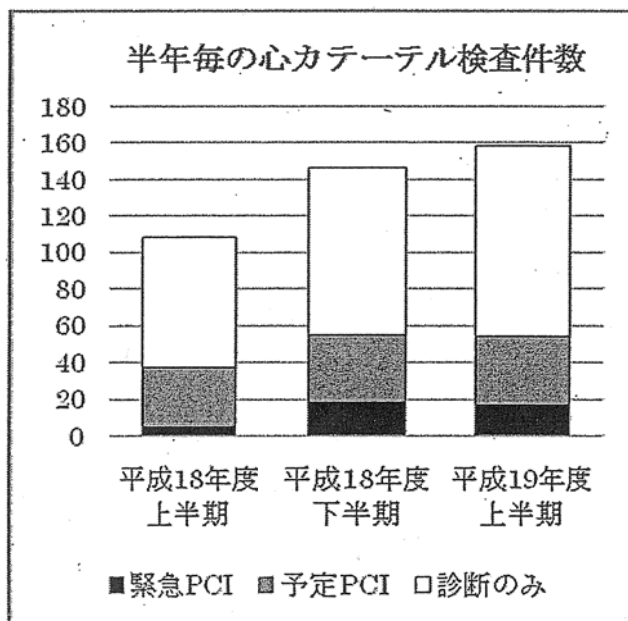
平成18年4月より、スタッフ3名にて診療開始。冠動脈疾患に対するカテーテル治療（PCI）を中心に、急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性心不全、頻脈性および徐脈性不整脈、肺血栓塞栓症などの循環器救急患者を24時間体制で受け入れている。平成19年度より日本循環器学会循環器専門医研修関連施設として認定。

<診療実績>

平成18年4月より診療開始。患者数は比較的順調に増加し、入院患者の約3分の1は緊急入院であった。緊急入院患者の原因疾患としては、急性冠症候群、急性心不全、頻脈性および徐脈性不整脈の3つがほぼ3分の1ずつを占めていた。当院では重症患者の受け入れも積極的に行っており、これまで、ショックまたは心肺停止症例に対して経皮的な心肺補助装置（PCPS）を計5回挿入した。



半年毎の心臓カテーテル検査件数の推移を下図に示す。最近1年間のPCI件数は109例で、これは下表に示すように平成17年のデータによると市内上位10位以内に相当する。PCIの約3分の1は、急性心筋梗塞や不安定狭心症による緊急症例であった。



福岡市内主要病院における心カテーテル治療件数

「手術数でわかるいい病院2007」（朝日新聞社）より
当院以外は平成17年1月から12月までのデータ

1. 福岡大学病院	507
2. 福岡和白病院	350
3. 済生会福岡総合病院	290
4. 千鳥橋病院	285
5. 九州医療センター	282
6. 福岡市医師会成人病センター	261
7. 九州大学病院	162
8. 福岡赤十字病院	144
9. 福岡市民病院	109
10. 原三信病院	98
11. 福岡記念病院	77
12. 浜の町病院	74
13. 千早病院	74
14. 川浪病院	53
15. 聖峰会マリン病院	47
16. 白十字病院	24

平成19年末までに12例の永久ペースメーカー移植術または交換術を施行。冠動脈バイパス術、胸部大血管手術、不整脈に対するカテーテルアブレーションなどが必要な場合は、適宜、九州大学病院、九州医療センター、福岡大学病院、福岡和白病院、福岡徳洲会病院などへ紹介した。

以上、診療開始してまだ2年に満たないが、既に市内主要病院と比べて遜色のない実績を挙げており、周辺医療機関からの紹介も多く、福岡都市圏の循環器診療において一定の評価を受けている。

(6) 整形外科

<概要と実績>

近年の年間手術症例数は右肩上がりに増加傾向にある(図1)。中でも特長といえるのは脊椎手術症例数の多さである(図2)。福岡市内における主要公的病院の脊椎手術症例数を図3に示す。当院は「東の市民病院、西の九州医療センター」として、常に症例数ランクの1位ないし2位をキープしている。脊椎疾患は診断から手術、後療法に至るまで常に特殊な技能が要求される。整形外科だけでなく麻酔科や放射線科、更には全身合併症を管理する各科の医師、そして看護師、理学療法士といった脊椎疾患に携わるチームとしての医療体制が確立している。神経合併症と常に背中合わせの脊椎手術を安全に遂行できるのは、長年にわたって培われてきたこうした当院の背景があるからである。末尾に2006年12月29日号の週刊朝日に掲載された表：「腰椎の手術数が多い病院」(全国版)を添付する。

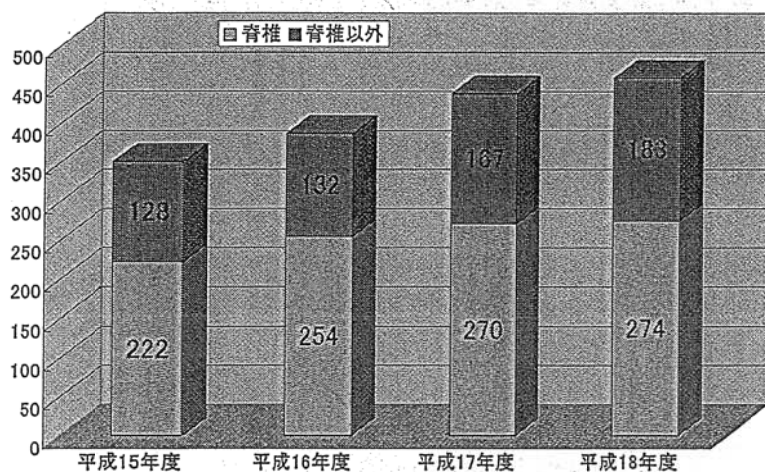


図1: 整形外科手術症例数

図2: 平成18年度 整形外科手術の内訳

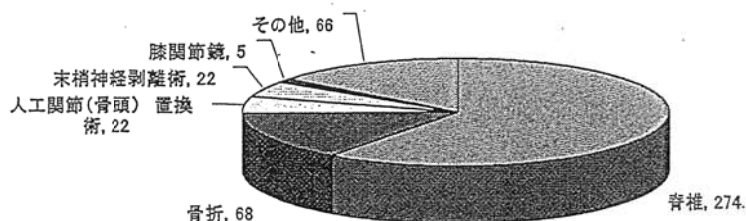
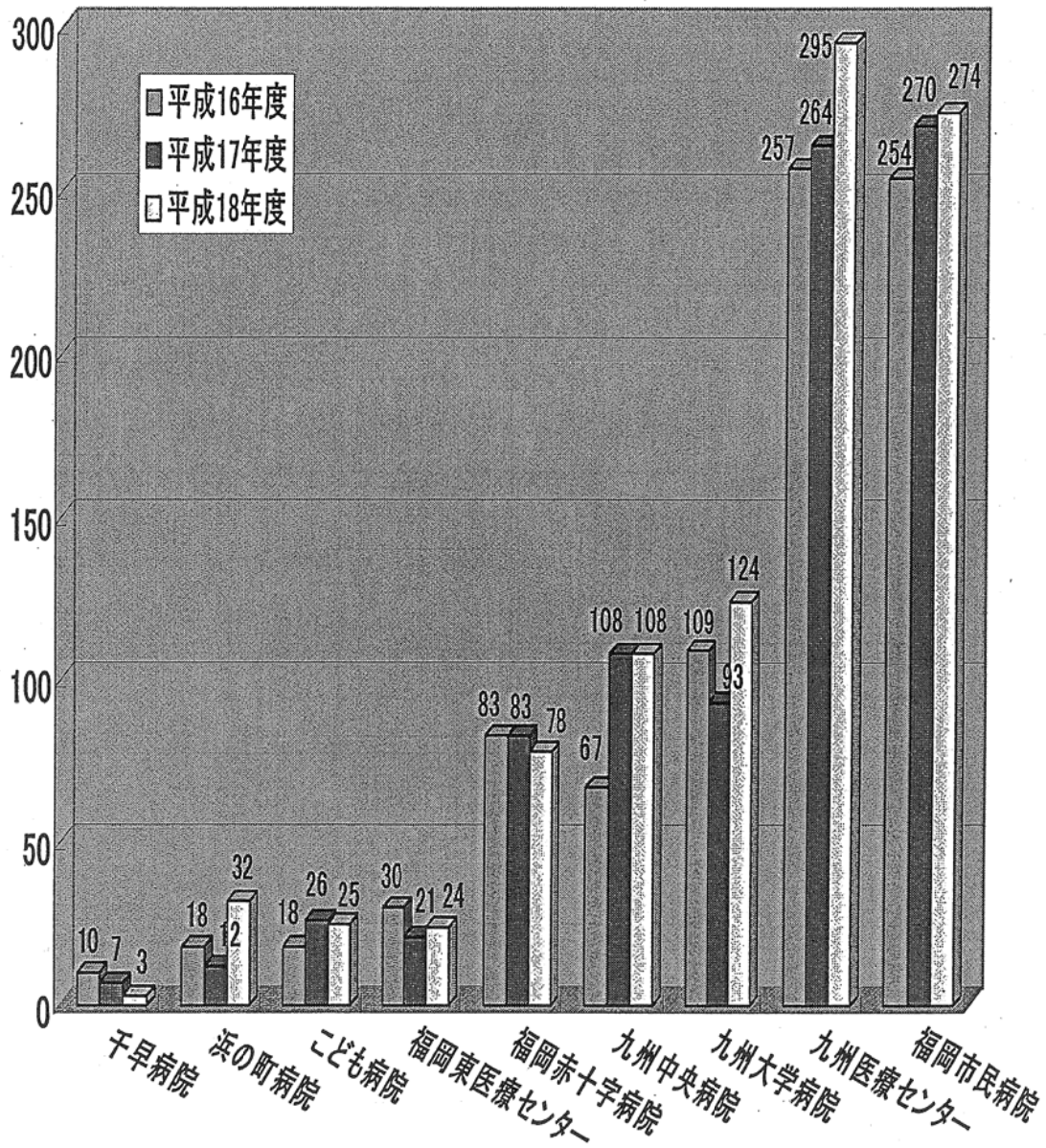


図3:福岡市内主要公的病院における脊椎手術症例数
 (九州大学整形外科学教室 同窓会誌より)



手術数でわかる いい病院

第3弾 腰と首、関節の病気

腰椎の手術数が多い病院

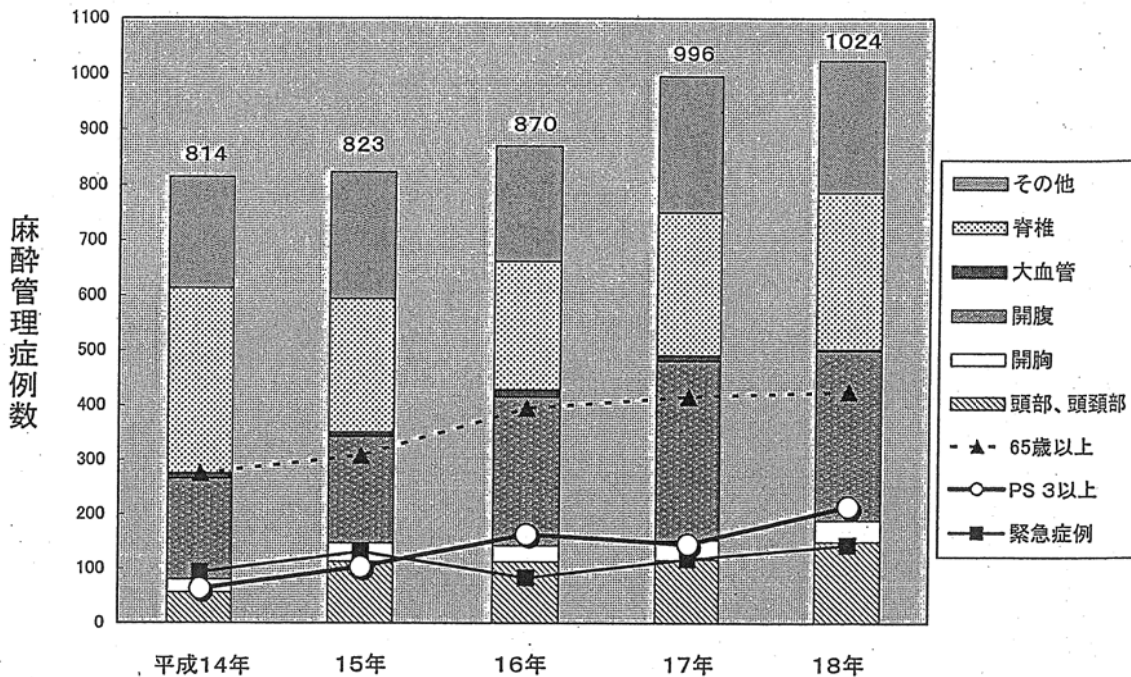
週刊朝日 12月29日号

病院名	所在地	手術数	椎管狭窄症	ヘルニア
浜臨整形外科病院	広島市中区	530	313	217
高岡整志会病院	富山県高岡市	487	334	153
北海道整形外科記念病院	札幌市豊平区	467	269	198
成尾整形外科病院	熊本市	457	350	107
えにわ病院	北海道恵庭市	455	299	156
総合せき損センター	福岡県飯塚市	447	267	180
九段坂病院	東京都千代田区	358	288	70
広島市立安佐市民病院	広島市安佐北区	352	190	162
西島脊椎クリニック	東京都調布市	328	191	137
熊本中央病院	熊本市	305	240	65
整形外科米盛病院	鹿児島市	295	206	89
美唄労災病院	北海道美唄市	292	215	77
慶応義塾大学病院	東京都新宿区	283	142	141
弘前記念病院	青森県弘前市	276	146	180
大阪厚生年金病院	大阪市福島区	273	146	127
(国)村山医療センター	東京都武蔵村山市	271	158	118
岩井整形外科内科病院	東京都江戸川区	266	25	241
熊本整形外科病院	熊本市	259	122	137
杵築市立山香病院	大分県杵築市	257	157	100
小文字病院	北九州市小倉北区	256	214	42
慶友整形外科病院	群馬県館林市	244	123	121
済生会川口総合病院	埼玉県川口市	243	105	138
長崎労災病院	長崎県佐世保市	241	72	169
大津市民病院	大津市	227	162	65
昭和大学病院	東京都品川区	223	119	104
中部労災病院	名古屋市港区	223	136	87
藤枝平成記念病院	静岡県藤枝市	215	135	80
長崎造船所病院	長崎市	215	64	151
帝京大学溝口病院	川崎市高津区	212	89	123
東海厚生年金病院	松江市	211	122	89
竜操整形外科病院	岡山市	204	125	76
福岡市民病院	福岡市博多区	201	150	51

※2005年4月～2006年1月の症例数

日本脊椎神経学会及び日本脊椎外科学会の指導医がいる医療機関を対象に調査し、「椎管狭窄症に対する椎弓切除術等」と「椎間板ヘルニア手術」の合計数（2005年1年間）の多い病院を表にした。データは12月14日現在（以下同）。

(7) 麻酔科



<概要>

①手術室に安全と安心を提供

上記のグラフは日本麻酔科学会集計による麻酔科管理症例の内訳を示しています。手術件数は年ごとに増加し、高齢者が多くなってきております。(65歳以上)手術件数は内シャント、白内障手術などの局所麻酔症例があと450例程加えた数となります。

当院は、平成15年に救急告示と脳卒中センター、17年には集中治療部そして18年には循環器科の増設を行いました。それに伴い、脳内出血症例、頭部外傷、骨折、急性腹症、腹部大動脈瘤破裂症例などに対する緊急手術は確実に増加しています。(緊急症例)緊急開頭術のように来院後30分以内の手術室搬入など迅速な対応が要求されます。さらに循環器合併症例も増加して、術前合併症を示すASA-PS(米国麻酔学会術前状態分類)も高くなってきています。(PS3以上の症例)手術部位としては脊椎手術が多い特徴がありますが、内視鏡を使った腹部外科手術が増加してきました。また頸椎疾患で後屈制限のある症例が多く特殊な気管挿管技術を駆使して管理しています。脊椎や大血管手術では低血圧麻酔や術中出血回収型自己血輸血を行うことにより日赤輸血を最小限に抑える工夫をしています。

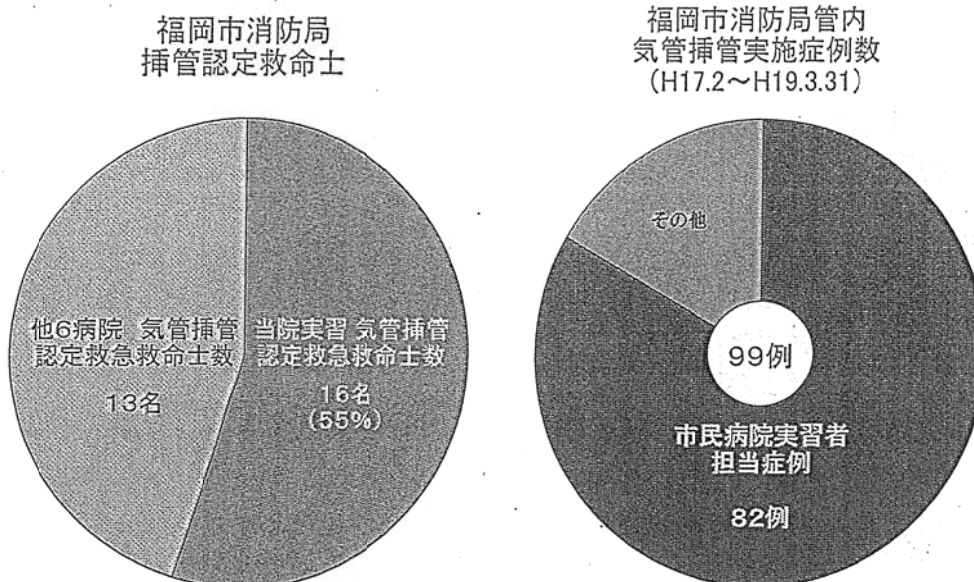
また手術室は研修医など新人の出入りが多くリスクマネジメントが重要な部署ですが、日本麻酔学会による麻酔関連偶発症はここ10年で大量出血の1例のみで無事に退院されました。麻酔関連薬剤の誤投与などによるインシデント調査でも手術室スタッフの積極的な関与により未然に防ぐことができています。

②麻酔科：救急隊への教育活動に協力

ア. 救急救命士の挿管実習

心肺停止症例の蘇生に欠かせないのは「胸骨圧迫(心臓マッサージ)」と「確実な気道確保」です。平成16年7月より救急救命士の気管挿管認定制度が開始されました。当院

では気管挿管は気道確保の一番確実な方法ですが、丁寧なマスク換気が基本と言う考え方で指導しています。そして各診療科の主治医と700名あまりの患者様のご協力により、平成20年1月までに福岡市消防局17名；粕屋南部消防本部3名の計20名の実習が終了いたしました。“気道確保”全般を学んだ修了者の活躍は図にあるようにめざましいものがあります。



イ. 救急ワークステーション研修への積極的な参加

手術の見学だけではなく、緊急手術症例の麻酔導入や特殊挿管(意識下挿管;ファイバー挿管;分離肺換気等)、抜管など“意識と気道全般のケア”を見学することにより、救急隊全員のレベルアップを図ることに主眼をおいています。

(8) ICU・救急部

<概要>

当院では主に脳神経および循環器領域の救急疾患を中心に、広範囲の救急疾患を対象としており、福岡市消防局をはじめとした近隣の消防局もこの特徴を把握していただいている。

<特徴>

① 迅速な救急対応

救急搬入から診断、根治的治療まで、適切かつ迅速に対応しており、特に迅速性については3次救急施設に勝るとも劣らないものと考えている。

② 院内教育

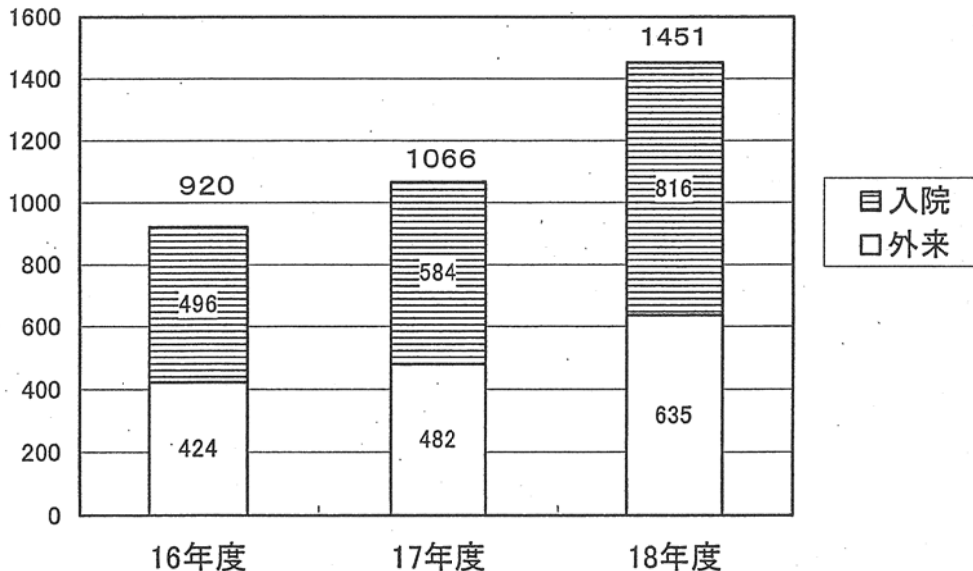
質の高い救急医療を提供するために、院内では全医療職員を対象としたBLS OSCE(基礎的心肺蘇生法の客観的臨床能力試験)を毎年実施し、さらに2ヶ月毎には院内ALS、さらに定期的に救急症例検討会を開催している。

③ 病院前救護 救急隊との連携

院外では福岡地区メディカルコントロール事後検証会議や福岡市消防局ワークステーション、救急救命士気管挿管実習、福岡メディカルラリーなどに積極的に参加し、各消防局と協力して病院前救護にも力をいれている。当初、ワークステーションは当院を含む4医療施設で開始されたが、実習内容が充実していることから非常に高く評価されている。気管挿管実習では福岡地区で最も多数の気管挿管認定救命士を養成している。

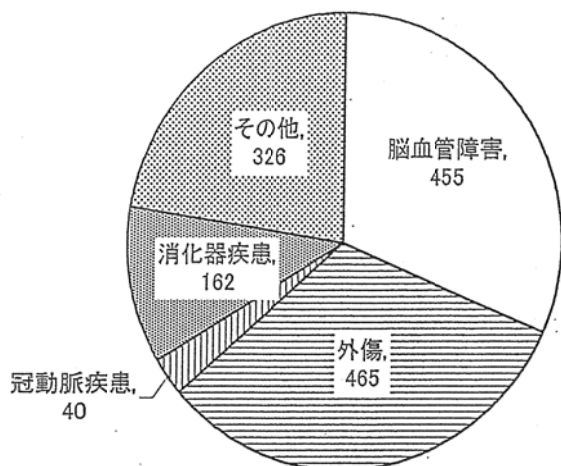
<診療実績>

救急搬送件数および転帰



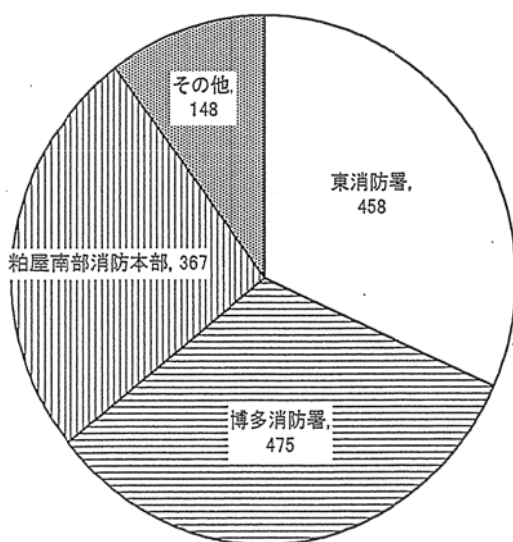
救急搬送件数は確実に増加している。56%は入院を要する症例であり、中等症以上の重症例が多いことがわかる。

平成18年度救急搬送疾患内訳



平成18年度の救急搬送疾患内訳では、脳血管障害と外傷が多数を占めている。

平成18年度救急隊所属内訳



平成18年度救急隊所属内訳では福岡市消防本部東消防署、博多消防署、粕屋南部消防本部が多く、地域に密着した活動を反映している。

(9) 放射線科

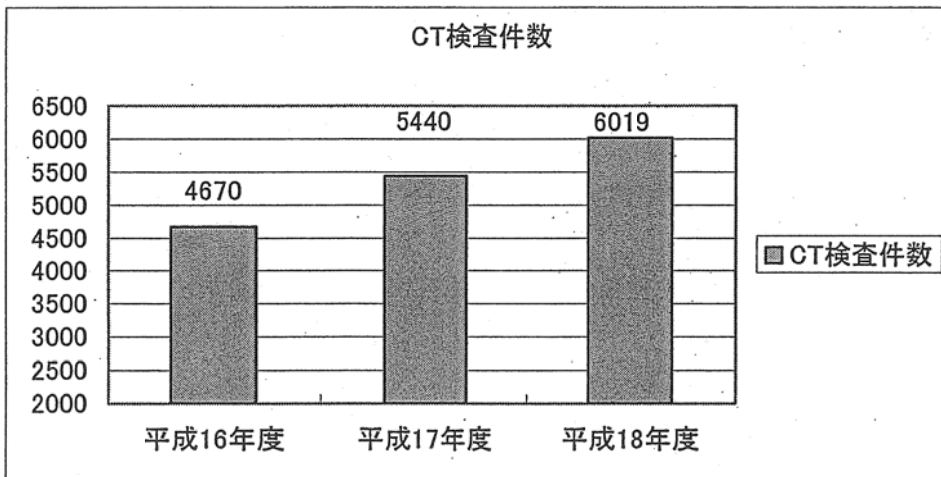
<概要>

市民病院の放射線科は画像診断とIVR（インターベンショナル・ラジオロジー）を担当

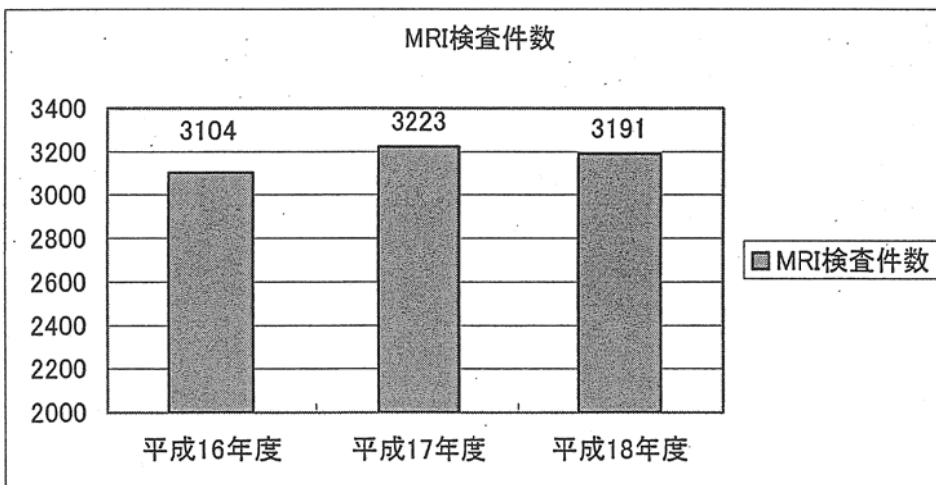
- ① 画像診断：超音波検査，単純X線写真読影，CT，MRI，血管造影など。
- ② IVR：肝臓の化学塞栓術，B-RTO（バルーン下逆行性経静脈的塞栓術），動注ポート留置など。

<特徴，診療実績>

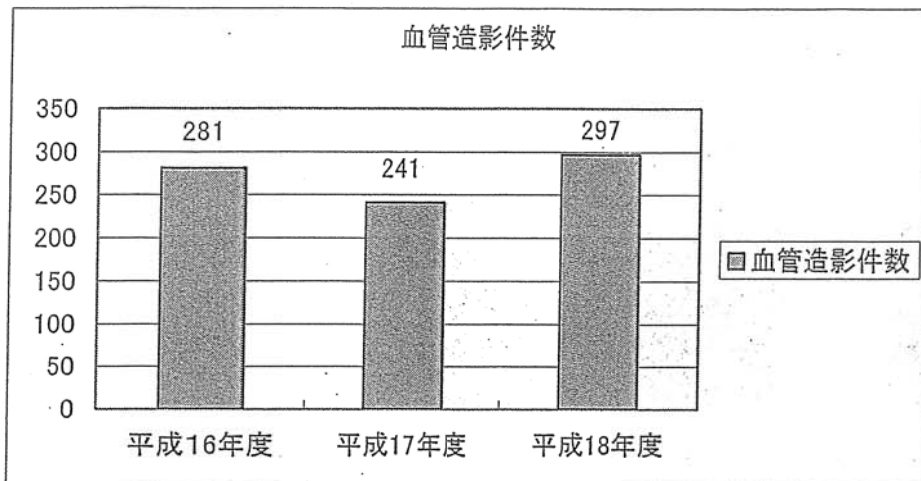
- ① 単純X線写真：手術前の胸部単純X線写真，マンモグラフィ，読影依頼のあった単純写真の読影。
- ② 超音波検査：腹部，頸部，乳腺の超音波検査を担当。平成18年度は4330件施行。
- ③ CT：頭部，胸部，腹部など全てのCTフィルムを読影。CTの件数は下図のごとく増加。



- ④ MRI：腹部，頭部，脊椎など全てのMRIを読影。時間外の急患に対してもMRIを施行。

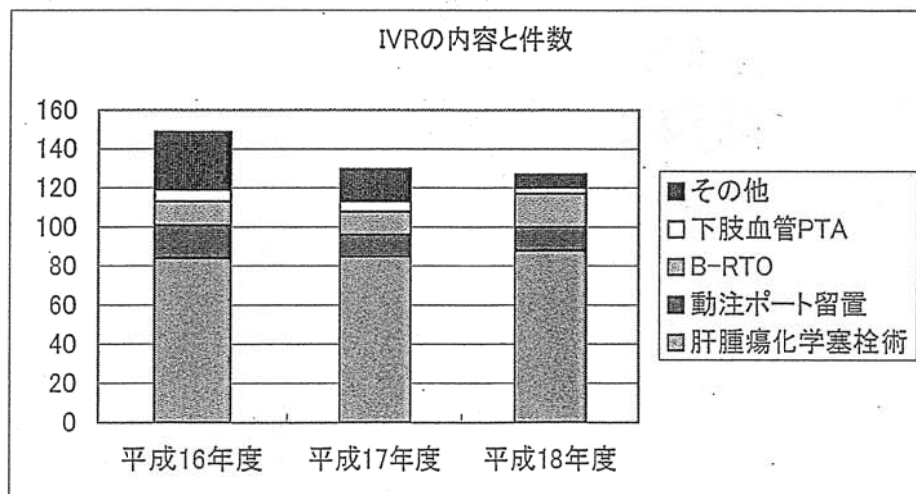


⑤ 血管造影：肝臓と頭部の血管造影がほとんどで、肝臓の大半は下記の IVR の症例。急患は、時間外にも施行。当院の検査件数は市内の総合病院と比較するとベッド数のわりにひじょうに多い。

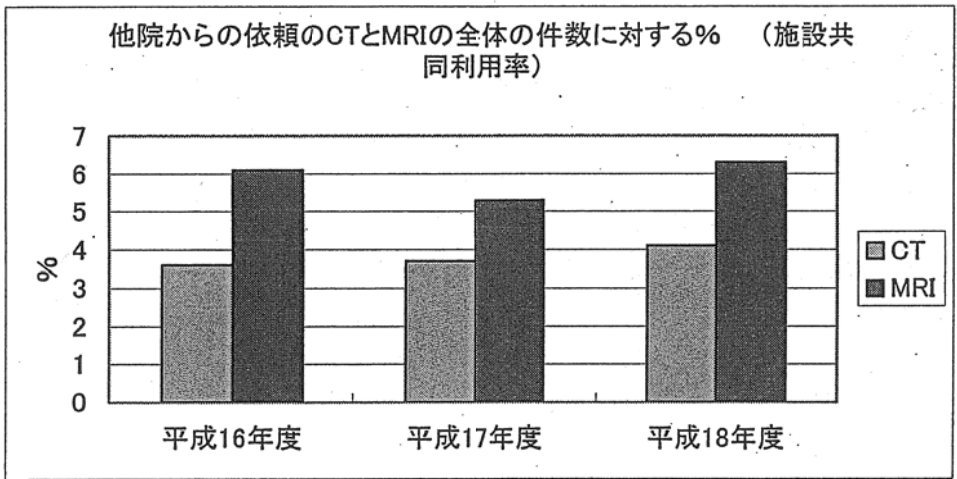
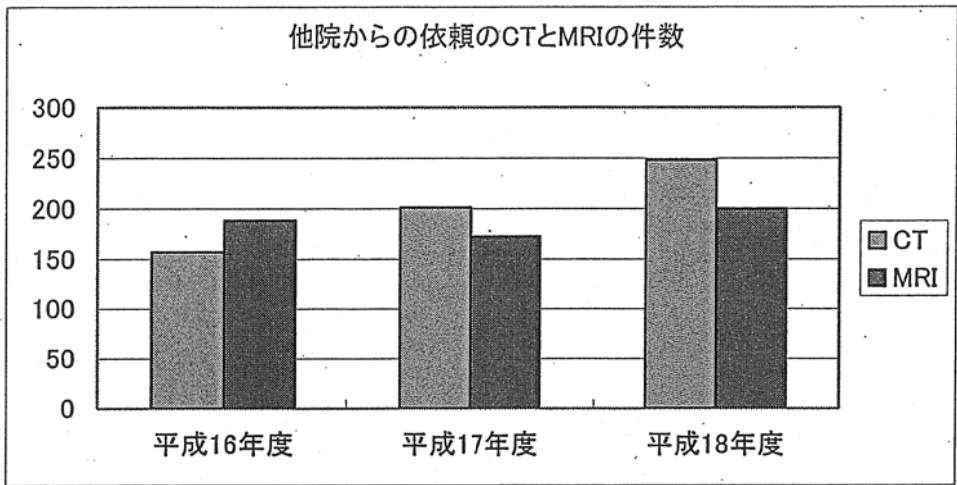


⑥ IVR：肝細胞癌に対する化学塞栓術，リザーバー留置，胃静脈瘤に対する B-RTO（バルーン下逆行性経静脈的塞栓術）などの肝硬変/肝臓癌に対する IVR が大半で，肝硬変/肝臓癌関係の IVR は増加。市民病院の肝臓癌の良好な治療成績に貢献。B-RTO は市内の総合病院から当院へ紹介されてきている。

その他閉塞性動脈硬化症に対する PTA（経皮的血管形成術）とステント留置など。



⑦ 施設共同利用（病診連携）：他院からのCT, MRI の画像診断の依頼はグラフのごとく、件数、当院の検査件数に対する割合（施設共同利用率）ともに増加傾向で、地域の先生方の診療に貢献している。MRI に関しては5%を越えているので、MRA や MRCP では特殊撮影料金を加算できる。



3. 災害被災地への派遣等

(1) 災害被災地への医療団（チーム）の派遣

①阪神淡路大震災への派遣（平成7年1月17日午前5時46分発生）

派遣期間 平成7年1月21日～2月末まで
（福岡市医療団として第1次から8次まで派遣）
編成 衛生局（当時）、各区保健所、市民病院、
こども病院・感染症センター職員で
医師、看護師、保健師、事務職員で構成
当院派遣職員 市民病院から医師12名、看護師15名を派遣

②福岡県西方沖地震への派遣（平成17年3月20日午前10時56分発生）

玄界島住民が避難した九電体育館に避難所開設の間、職員を派遣
派遣期間 平成17年3月20日～4月24日まで（35日間）
派遣職員 医師76名、看護師86名、事務9名 延171名

③新潟県中越沖地震への派遣（平成19年7月16日午前10時30分発生）

派遣期間 平成19年8月1日～8月6日まで
派遣職員 医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名
計5名の医療チームを派遣

(2) 離島医療への派遣

本市が設置している離島の診療所のうち、玄界診療所に医師を派遣し島民の医療の確保に努めている。

- ・平成13年4月～平成15年5月までは、常勤医不在のため、当院の医師が交代で常駐した。
- ・その後は代務医師として、毎月1回及びゴールデンウィーク、年末年始等に派遣している。

4. 看護師等人材育成のための実習生受入

当院では、看護専門学校等からの要請を受け、看護師等医療分野の業務を目指す学生の病院実習生を受け入れ、人材育成に努めている。

また、救急隊員の救急業務の知識・技術向上を図るため、消防局と連携し救急ワークステーション事業及び救急救命士の気管挿管実習を実施するなど救急医療の向上に努めている。

部署	職種	受入開始	H16 (人)	H17 (人)	H18 (人)
看護師	看護師	平成元年以前	131	341	311
検査	臨床検査技師	平成元年以前	2	3	2
給食	管理栄養士	平成元年以前	26	25	17
薬局	薬剤師	平成元年以前	2	4	4
リハビリ	理学療法士	平成10年	2	2	1
麻酔科 (再掲)	救急救命士 (気管挿管)	平成16年	4	6	6
救急部 (再掲)	救急隊員 (救急ワークステーション)	平成17年	-	32	48